

第2学年国語科学習指導案

日 時： 平成18年11月2日(木)1校時
生徒： 2年A組(男子1名 女子6名 計7名)
授業者： 教諭 古瀬 勝子

- 1 単元名 根拠を明らかにして書こう
意見を伝える

2 単元について

(1) 教材観

本単元では、国語科第2学年及び3学年の目標「(2)様々な材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして、論理的に書き表す能力を身に付けさせるとともに、文章を書くことによって生活を豊かにしようとする態度を育てる」のために、「書くこと」指導内容「エ 自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと」及び、「話すこと・聞くこと」の指導内容「エ 相手の立場や考えを尊重し、話し合いが目的に沿って効果的に展開するように話したり聞き分けたりして、自分の考えを深めること」に力を入れて指導しようとするものである。

意見文を書く上で大切なことは、自分の意見を相手に言葉を用いて伝え、相手を納得させることである。そのためには、根拠をしっかり持つこと、論点をはっきりしていることが重要となる。本単元では、作文を書く前に、自分の意見や根拠となる事柄が、相手にどのように伝わるかを知ることが目的に対話を設定した。相手の考えを受け入れ、自分の考えを深めることで多面的な見方を身につけることができ、説得力のある文章を書けるようになると考えた。相手の反応や反論を予想した論の進め方を身につけさせたい。

(2) 生徒観

明るく素直で心の温かい思いやりのある生徒達である。少人数ながら、互いに支え合い、励まし合いながら学習や活動に取り組んでいる。また、次期リーダーとしての自覚が高まっている。インタビューや職場体験学習を通して、相手から話を聞くことの大切さを学んできた。しかし、自分の考えを相手に伝えたとき、相手が違う考えを持っていると、踏み込んだ話し合いができない。常に変わらないメンバーで、相手の気持ちを察しながら生活しているので、ぶつからないように自分の考えをあきらめたり、相手の意見を優先させたりすることが多い。相手との考えの違いを受け入れながら、多面的なものの見方ができ、さらに自分の考えを深め、伝えられるようになってほしいと考えている。また、他の集団に入ったときにも、自分の考えを大切にしながら、自信を持って話せる力を身につけてほしいと考えている。

書くことでは、一年で「課題について調べよう」という単元で、環境について、情報を集め事実と意見を区別して意見文を書く学習している。書くことに対しては抵抗感を持ってはいないが、自分の思いこみで書き進めることが多い。相手にわかりやすく伝えるという目的意識を持って相手を納得させるように工夫して書く姿勢を持たせたい。

(3) 指導観

「中学校生活を考えよう」というテーマは、中学校生活がどうあればよいかを考えるものである。相手を意識して、論理的な意見文を書くことができるようにするために、様々な人との対話を設定した。「学校の統合について」というテーマで対話や筆談をすることにより、自分達が見聞したことから、学校の意義や統合のメリット、デメリットを考える。また、先生方との対話を通して、教える立場からの意見を知ること、自分の考えを深めさせることができると考えた。学校についての考えを深める中から、今の自分達にできることは何かを考え、意見文にする。自分の立場や根拠を明らかにしながら話したり、相手の考えを受け入れながら話を聞き分けたりすることで、どのように工夫すれば自分の伝えたい意見が伝わるかを考えさせたい。

また、対話の経験から根拠を明らかにし、反論を想定しながら考えを述べる文章の書き方を身に付けさせたい。さらに、読み手に意見を理解し、納得してもらうための構成を工夫させたい。

対話や筆談、意見文の発表会をする上で、それぞれの表現の仕方について、課題や取り入れたい

ところを発言し合うことで研究仮説の(1)伝え方を身に付ける指導の工夫、(3)発言・発表、熟考、受容と高め合いが相互に関わり合う場を設定している。

3 指導計画

(1) 指導目標

- ア 積極的に根拠を挙げて対話し、考えを深めながら構成を工夫しながら自分の意見をまとめようとしている。(関心・意欲・態度)
- イ 自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して意見文を書いている。(書くこと 工)
- ウ 対話を通して、相手の立場や考えを尊重し、話し合いが目的に沿って効果的に展開するように話したり聞き分けたりして、自分の考えを深めようとしている。(話すこと・聞くこと 工)
- エ 自分の伝えたい事柄や思いを読み手にわかりやすく伝えるために、語句を吟味し、文章形態を工夫することができる。(言語事項 工)

(2) 指導計画 全8時間

時間	学習内容・活動	評価規準	評価方法	表現の場面設定
第1次 (1)	学習の見通し 「中学校生活を考えよう～大人数で学ぶのがよいか、少人数で学ぶのがよいか」という意見文を書く ・学習の計画を立てる。 ・意見文の特性を知る。 ・自分の立場を決める。 ・自分の意見について、根拠や、予想される反論を考え、まとめる。	・学習のねらいを把握し、見通しを持っている。(関) ・意見文の特性について積極的に発言し、理解している。(話・聞) ・自分の立場を決め、考えをまとめる(書)	・発言 ・ワークシート	・学習の計画について話し合う。 ・意見文の特性について話し合う。 ・自分の意見について、ワークシートにまとめる。 ・対話の特性について話し合う。 ・対話の練習をする。
第2次 (4) 本時4	対話(筆談)をする ・それぞれの立場に分かれて筆談をし、考えを深める。 ・反対の立場に立って筆談をする。 ・筆談の内容を振り返りながら、対話の運び方について考え、質問内容を整理する。 ・準備した内容に基づいて対話を行う。 ・対話をするために大切なことは何かを話し合う。 ・前時の対話内容を振り返り、それに基づいて先生方を相手に対話を行う。 ・相手の考えを受け入れながら、対話を運用し、内容価値の深まりが生まれるように対話を行う。	・積極的に対話している。(関) ・筆談を振り返り、よりよい対話についての目標を持つことができる。(関) ・対話や筆談を行い、相手の話の意図を考えながら話したり、聞いたりして、自分の考えを深めている。(話・聞)	・行動観察 ・筆談の内容 ・メモ	・筆談をする。 ・筆談を振り返り、互いの良い点や課題点を指摘し合い、よりよい対話についての意見交流をする。 ・対話をする。 ・対話を振り返り、自分の課題点を見出したり、アドバイスをしあう意見交流をする。 ・対話のキーワードをまとめ、記録する。
第3次 (2)	意見文を作成する(800字) ・対話メモ、取材資料等を元に意見文の構想をまとめる。 ・構成や表現に留意して、意見文を書く。 ・相手の反応を想定して、論を進める。 ・積極的にアドバイスを求めながら、自分の作文に生かす。	・相手を想定し、自分の意見が正確に伝わることを意識しながら書いている(書) ・アドバイスを進んで求め、意見文に生かしている。(関)	・意見文	・構成に注意して、意見文を作成する。 ・アドバイスをし合い推敲する。
第4次 (1)	意見文の発表 ・相手に伝わりやすい発表の仕方を工夫して意見文を発表する。 ・意見文を聞き、相互評価をする。 振り返り次へつなげる。	・相手に伝わるように、発表の仕方に気をつけて意見文を発表している。(話・聞) ・相手の意見文がわかりやすいか、論理的かに気づき、感想を発表する。(話・聞) ・積極的に発言し、相手の意見を受け入れている(関)	・行動観察 ・相互評価 ・自己評価	・意見文の発表と相互評価をする。

4 本時の指導(全5時間中3時間目)

(1) 本時の主題 「学校の統合について」先生方と対話をする

(2) 本時の目標

- ・意欲的に対話をし、自分の考えを深めようとする。(関心・意欲・態度)
- ・自分の意見を明確にしながらかつ話すとともに、立場や意見の違いを考えながら相手の意見を聞き、適切に反応し、質問をしながら、対話を深めることができる。(話すこと・聞くこと 工)
- ・自分の意見を適切に伝えるために、言葉遣いを吟味し、話の展開を工夫して、聞きやすい話し方をするすることができる。(言語事項 工)

(3) 本時の指導構想

本時では、立場の違う人と対話をするを通して、様々なものの見方や考え方を身につけさせたい。その中で、根拠を明らかにしながら自分の考えを話したり、相手の意見を受け止めてさらに広げたり深めたりして、対話を進める力をつけさせたい。

(4) 展開 (学習活動 表現の項目 ・ 指導上の留意点 評価 評価方法)

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	本時の目標の確認 ・対話を進める力をレベルアップしよう。		目的意識を持っているか。(関・意・態) よりよい対話について考えて発言しているか。(話・聞) 発言内容、観察 ・それぞれがレベルにあった目標を設定できるようにさせる。
5分		対話の仕方について発表する。 対話テーマ「学校の統合について」を確認する。 自分の意見の話し方と目標を再確認する。	
展開	対話をする(1) 交流をする 対話をする(2) まとめる	積極的に先生方と対話をし、自分の考えを話し、相手の考えを聞き取る。 振り返りシートに対話の内容をまとめる。 ・自分の考えと同じ点、違う点をキーワードとして整理する ・対話をして、思うように対話が運べたかどうかを振り返る よりよく対話をするためにどうするか、意見交流をする。 対話内容を再構成し、対話する。 ・別の先生と対話をする。 対話の内容をまとめる。 ・自分の考えと同じ点、違う点をキーワードとして整理する。 ・一回目と比べ、対話が上達したかどうかを振り返る。 どのように聞くことが効果的だったかを話し合い、次に生かせるようにする。 二度の対話を通して自分の考えは深まったか、対話を進める力がレベルアップしたかどうかを振り返る。 作文のキーワードを整理し、ワークシートにまとめる。	・短時間であることを意識させる。 ・初めての会う先生方であることに注意させる。 ・相手が話しやすい質問の仕方に気をつけさせる。 意欲的に対話しているか。(関・意・態) 質問の仕方の工夫、話の聞き取り方ができているか。(話・聞) 相手を気遣う言葉遣いやわかりやすい話し方をしているか。(言) ・相手の話したいポイントを聞き分け、適切に質問したり、意見を言ったりできているかを観察する。 観察 ・キーワードを整理し、まとめさせる。 ・自分の聞き方や、伝え方を振り返らせる。 ・相手が話そうとしているポイントに気付き、深めたり広げたりできたかどうか注意させる。 ・どんな聞き方がよいか、アドバイスし合う。 話し合いを通して情報を整理し、不足部分に気付くことができたか。(話・聞) 発言内容 ・二度目の対話時間を長く設定する。 ・相手の話したいポイントを聞き分け、適切に質問したり、意見を言ったりできているかを観察する。 互いに発表し合い、よいところは自分に取り入れようとしている。(関・意・態) 観察 ・適切にキーワードが整理されているか。
40分			
終末 5分	次時の確認	自己評価カードに記録する。 次時の確認をする。	

(5) 具体的評価規準

	十分満足できる	満足できる	努力を要する場合の手だて
関心・意欲・態度	・楽しみながら対話をし、相手の話のポイントをつかんで、対話を広げようとしている。	・自分から進んで意見を話したり、質問をしたり、聞き返したりしながら対話をしようとしている。	・自分の話したい意見は何か、どのようにすれば対話が進むのかを明確にさせ、対話の必要性を再確認させる。
話すこと・聞くこと	・相手の話に対して、相手の意見のポイントを押さえて感想や反論を述べたり、質問したりしながら、理解している。	・相手の話の意見と事実を区別して話したり聞いたりして、話の内容を正確に聞き取っている。	・聞き取った内容を説明させ、不足や不正確な部分を指摘し、聞き直すポイントを再確認させる。
言語事項	・相手によりよく伝わるように効果を考えながら話し方や言葉遣いを工夫している。	・相手を気遣い、何を聞いているかがわかりやすいように、話し方や言葉遣いに気を配っている。	・聞き取りやすい話し方を考えさせ、言葉遣いについて助言する。

根拠を明らかにして書こう 意見を伝える

第一時

目 学習の見通しを立てる
標 自分の立場を決める

説得力のある意見文を書くためには、

根拠が明らかであること

自分の意見を主張するだけでなく、反論も想定していること

相手の反応を予測しながら論を進めていること

三点が大切であることを確認し、そのための方法として、自分の意見だけでなく、学級の仲間の意見、家族の意見、公開当日にいらっしゃる先生方の意見を聞くという方法を提示した。よりよい意見文を書くことは、よりよい対話者になることであるという類似点も示しながら、意欲付けをした。

さらに、「統合をするべきかどうか」という対話を通して、賛否の意見ではなく、「自分にとっての鳥海中学校」というテーマで書くこと、意見を伝える相手は広い意味での後輩達であることを確認した。

七人の立場は以下の通りである。（ は立場を変えて考えたとき）

賛成 二名

理由

たくさんの人と出会い、関わっていける

一人一人の負担が少なく、協力していける

たくさん意見が聞けて、成長していける

統合した学校の利点も吸収し、よりよい学校生活になる

さらに活気が出てくる

大人数だからできることがある

・部活の選択肢が増える

・話し合いでたくさん意見から新しい考え方が生まれる

・たくさん友達ができる

・学級でできることが増える（学級演劇から全校演劇になったことへの不満もあり）

・合唱の力が大きくなる

少人数のリーダーより大人数を引っ張るほうがより成長できる

税金の節約

きれいな学校に通える

反対 五名

鳥海の活気がなくなる

・地域の方とふれあう時間がほとんどなくなる

・今の鳥海中生は地域に根をはっているのに、切ってしまうことになる

・地域での朝夕のあいさつがなくなる

・体育祭、輝翔祭（文化祭）はお年寄りの楽しみでもある

・地域でのボランティアができなくなる

・祖父や父も鳥海中学校出身だから（母校をなくしたくない）

少人数のいい点が発揮できなくなる

・全校合唱を大切に考えながらできる

・全校でのふれあいがたくさんある

・いろいろな立場（リーダー）に立って成長できる機会が増える

・自分の力以上にがんばれる（大人数だと人に任せてしまう）

・一人一人が授業で教えてもらう時間がたくさんある

学校に通うのが遠くて大変になる

今まで築き上げてきたものがなくなってしまい、思い出がなくなる

みんなで協力して団結力が強い

大人数になるとやる気のない人もあらわれる

自分の意見の根拠を書く際に、「両方の意見が書ける」「どちらの見方もわかる」という声が上がった。物事の両面を考える姿勢ができていたことが伺える。また、予想以上に地域の中での鳥海中学校という意識が高いことがわかった。生徒会として取り組んでいる「地域に開かれた鳥海中学校」（三年前から）が意識下に根付いていると感じられた。この思いを大切にしなければならない。さらに、全校合唱での意見を出し合い、みんなで創り上げるということの価値もよくわかっていることがうれしかった。

第二時（以下構想）

筆談を通して、考えをさらに深めよう

- ・相手の意見の根拠は何か、相手がどんなことを言おうとしているのかを考えながら筆談を進める。
- ・立場を変えて、筆談を試みる

同じ意見であっても、相手が挙げる根拠に対して、深めた発言ができるかどうか、対話を広げる視点で組み立てることができるかどうか。自分の意見の不足はないかを振り返ることができるかどうか。また、家族にも意見を聞き、自分の根拠として生かせるようにする。

筆談の内容から、学習者のそれぞれの課題を把握すること。

第三時

筆談を振り返って、足りないところ、もっと広げられたところはないかを考える

南先生の「対話のトランザクション12」、噛み合った対話が成立するまでの五段階を示しながら、具体的に振り返る。また、それぞれの対話のよいところ、まねしたいところを考え、自分の対話に生かして対話の準備をする。質問内容を整理し、相手からの質問を想定した応答を準備する。

第四時

対話を試みよう

筆談と、実際の対話の違いをとらえ、筆談にはない要素（表情、あいづち、うなずきなど）を意識的に行う。立場を限定しないで、相互に異なる立場の観点を示しながら進める。三人、四人のグループに分け、対話をする人、記録する人と役割を分担して対話をする。よりよい対話を目指して、それぞれの課題を把握し、第五時の対話のための準備をする。

第五時

異なる立場（先生方）との対話を試みよう

前時の対話の課題点を振り返りながら、自分の目標を持つ。

先生方との対話を通して、自分の考えを深める。

第六時

意見文の構想をまとめる

前時までの対話や筆談を通して、深まった考えを意見文にするために整理する。

第七時

意見文を書く

構成や表現に留意して、効果的な書き方を工夫する。対話を想定し、自己内対話をしながら相手に伝わるかどうかを意識して書く。

第八時

発表会

学習活動の振り返りと評価